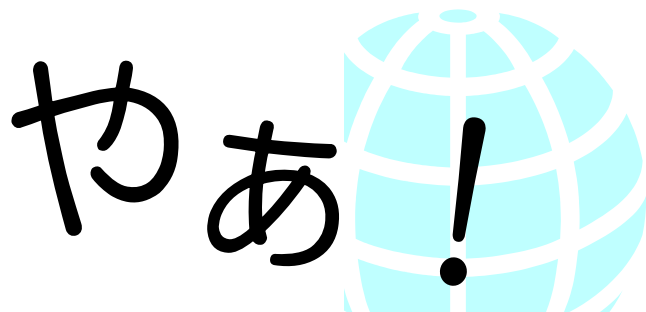


TIAニュース



TIAトピックス

やさしい日本語普及員養成セミナー
とちぎに暮らして…

ピーター キマニさん(ケニア)

JICA 情報局

海のむこうの暮らしから「ラオス」



TIAは「やさしい日本語」の普及をすすめています。



▲留学一年生にアドバイスを行う先輩留学生の皆さん

新規留学生のためのガイダンス&懇親パーティー

栃木県内の大学、大学院の一年生を対象とした新規留学生のためのガイダンス・懇親パーティーを5月25日(土)にとちぎ国際交流センターで開催し、留学生や関係者を合わせて46名が参加しました。

前半は、県国際課による栃木県の紹介、TIAの外国人向けの事業の紹介後、栃木県での留学生活について、先輩留学生によるアドバイスをを行いました。協力いただいたのは、宇都宮大学大学院2年のアザリア・ビンティ・ザハルディンさん(マレーシア)、作新学院大学4年の龔^{キョウ}辰旻^{シンミン}さん(中国)、白鷗大学4年のウィリヤサターポーケン チャリダーさん(タイ)の3名。日常の困りごととして、都会に比べて栃木県は移動が不便だが、自転車を購入したり、車を持っている友人と相乗りして買い物に行くなど工夫していることや、日本語の上達方法など様々なアドバイスがあり、先輩方の苦勞話に留学生らは熱心に耳を傾けていました。

後半の懇親パーティーでは、日本舞踊、津軽三味線、沖縄エイサーの日本伝統の演奏や踊りの披露もあり、演奏終了後には伝統楽器を触って弾いたり、留学生同士の交流を深めていました。



とちぎ外国人相談サポートセンター スタッフ紹介

とちぎ国際交流センター内に4月に開設した「とちぎ外国人相談サポートセンター」で相談を担当する新しいスタッフを紹介するシリーズ第2弾！それぞれのお国柄などもお伝えします♪



こん
金 アイン

(ベトナム語担当)



はじめまして、アインです。ベトナムでは日系企業のエンジニアとして働いていました。来日して約10年。現在は仕事と子育ても頑張っています。

■日本のいいところ

私はハノイの出身なので街はとても賑やかですが、交通量が多く、緊張してバイク通勤をしていました。日本では、交通ルールを守って運転している人が多いので、安心して運転できるのが、とてもいいところだと思います。

■ベトナム人は頑張り屋

ベトナム人は、大きい声でおしゃべりしたり、笑ったりとても元気です。そして真面目に仕事をする反面、わからないことや悩みがあっても、周りに相談して迷惑をかけるよりは自分で何とかしようと思ってしまうところがあります。

■相談スタッフとしての抱負

ベトナム人からの相談には、自分の経験や周囲の意見を参考に、その人の気持ちに寄り添って対応したいと思います。



ギミレ サントス

(ネパール語担当)



はじめまして、ギミレです。19歳で来日後、現在は宇都宮でスパイスショップを営み、ネパール人を始め様々な国の人との交流があります。

■日本に来て驚いたこと

高いビルやきれいな街並みもそうですが、一番は何でも自動なこと、例えば自動販売機や、バス料金を払う機械などです。見たことのないものは何なのかはわかりませんが、日本人に聞くのは言葉の壁もあり、初めは難しかったです。

■助け合いの精神のネパール人

ネパールでは、おしゃべりしながらのんびり歩きます。でも緊急なことが起こったら、周りにいる人はすぐに駆けつけます。けが人が出たときなどは、その場にいる人たちがみんなで協力し合って助けるのが普通です。

■相談スタッフとしての抱負

以前からお店のお客さんの相談を受けていましたので、その知識と経験を生かして頑張りたいと思います。

TIA トピックス TIA TOPICS

都内合同企業説明会

6月26日(水) 新宿NSビル(東京都)

栃木県からの委託事業で実施しているグローバル人材確保支援の一環で、海外展開を目指す県内企業と首都圏で学ぶ海外留学経験者、外国人留学生、国際協力ボランティア帰国者等のグローバル人材を対象に、都内で初めての試みとなる合同企業説明会を実施しました。

参加者は、会場内の各自興味をもったグローバル企業のブースに足を運び、企業担当者から各社の情報、業務内容などの説明を熱心に聞いていました。また、流暢な日本語で日本の就職活動や企業について積極的に質問し、県内企業にかなり関心を持ったという留学生もいました。

今年の秋には県内のグローバル人材を対象とした合同説明会を宇都宮で予定しています。



▲企業のブースで説明を受ける参加者

TIA 外国語講座 とちぎ国際交流センター

■「おもてなし英会話シリーズ」 めざそう！ボランティアガイド

4月17日(水)～7月10日(水) (全10回)

今年で4年目になる「おもてなし英会話」は、講師に全国通訳案内士の平野聖乃氏を引き続きお迎えし、観光地、レストラン、交通機関、日本の行事など様々な場面で役立つ表現を学びました。参加者それぞれ真剣におもてなし英会話を学び、多くの方が休まず全講座を受講していました。



▲英語で声掛けする講師の平野氏

■「はじめての英会話」

4月18日(木)～7月11日(木) (全10回)

イギリス、アメリカ、フィリピン、そしてケニアの4か国の講師と、テキストや時事ニュースをもとに英会話を学習しました。国籍の違う講師や受講生同士が英語で交流を楽しみました。



TIA ランチタイムコンサート

お昼の時間（12:15～13:00）に、国内外の様々なジャンルの音楽を聞いたり、とちぎ国際交流センターを知っていたく目的で開催しています。

■ピアノとバリトン歌手のコンサート

5月31日（金） ※ユニ音楽国際交流協会と共催
出演者：石田忠隆氏（バリトン）、糸川玲衣香氏（ピアノ）
曲目：ベートーベンの第九より（ドイツ）等

■和の響～和楽器コラボ～

6月28日（金） ※ユニ音楽国際交流協会と共催
出演者：松本玉苑氏（琴）、小山貢清世氏（津軽三味線）ほか
曲目：春の海、元禄花見踊り、豊年太鼓等

■フランス語で歌うシャンソン・デュオ

栃木県・フランス共和国ヴォークリューズ県友好交流30周年記念
※とちぎ・プロヴァンス協会
と共催

7月26日（金）
出演者：レ・ドゥ・シュヴォー
（高橋一徳氏、野中英士氏）
曲目：男と女、バラ色の人生、愛の讃歌等



サポートセンター相談員・関係機関職員研修会

外国人住民等への相談業務や支援に必要な知識を学ぶため、サポートセンタースタッフを含むTIA職員と県内関係機関職員を対象とした研修会を下記日程のとおり、とちぎ国際交流センターで行いました。



- ・「入管法」7月11日（木）、17日（水）
- ・「労働法」7月24日（水）、25日（木）
講師：深見 史氏（行政書士、社会保険労務士）
- ・「外国人医療」8月1日（木）、7日（水）、8日（木）
講師：渡邊初実氏（自治医科大学附属病院患者サポートセンター 社会福祉士、精神保健福祉士）

「入管法」では、今年新設された「特定技能」のほか、県内に多い在留資格について詳しい解説があり、就労系か身分系により注意点が異なることを学びました。「労働法」では、在留資格により異なる手続き、労災、社会保険、社会保障制度について解説がありました。「外国人医療」では、医療ソーシャルワーカーの役割、健康保険や医療費の説明のほか、外国人患者への対応事例の紹介がありました。

やさしい日本語普及員養成セミナー ～みんなで広めよう！「やさしい日本語」～

8月2日（金） とちぎ国際交流センター

日本語があまり得意でない外国人にも伝わりやすい「やさしい日本語」について知り、学んだことを日頃の活動の中で、周囲に広めていただく「やさしい日本語普及員」の養成セミナーを開催しました。講師は、話し言葉による「やさしい日本語」を研究されている一橋大学国際



教育交流センター准教授の柳田直美氏。セミナーには、今年立ち上げたばかりの「やさしい日本語普及員バンク」にすでに登録されている方や登録希望の方など、高校生を含む56名が参加しました。

セミナーでは、外国人の基礎情報、わかりやすい伝え方のワークのほか、役所の窓口の対応の様子を映像で見ながら、外国人の視点に立って、職員の話し方や態度について客観的な評価をグループで行いました。

その後、「やさしい日本語」の普及について活発に意見を出し合い、職場や学校、地域で広める意志のある方が多くみられました。

やさしい
にほんご

Yasashii Nihongo

やさしい日本語出前講座

下記の研修会等において、TIA 職員の田島亮子が講師を務め、「やさしい日本語」について紹介後、オリジナル動画を見て、外国人への伝え方について気づいた点や工夫ができることについて話し合ったり、グループワークを通して「やさしい日本語」を体験するなど理解を深めていただきました。

・栃木県高等学校教育研究会国際理解教育部会、 栃木県高等学校国際教育研究協議会 研修会

5月21日（火） 栃木県立宇都宮北高等学校
〔対象〕 国際理解教育担当教員等

・壬生町国際交流協会 研修会

5月24日（金）
壬生町役場
〔対象〕 壬生町国際交流協会会員、同町職員



・スキルアップ・やさしい日本語実践セミナー

6月13日（木） 佐野市隣保館
〔対象〕 佐野市役所職員等



ピーター キマニ さん
Peter Kimani

ケニア ナイロビ 出身。
元パイロット。現在は、県内の大学、企業、教室などで英語教師として活躍。趣味はバイクでのツーリング。一児の父。

ーキマニさん、初めまして！ケニアでは、パイロットのお仕事をされていたんですね。

はい。最初は民間の航空会社で旅客機を操縦していました。7年程度の経験を積んだ後、次のチャレンジとして国連や赤十字の医療活動の仕事に3年ほど従事しました。

ーどのようなお仕事でしたか？

南スーダンには、北側のスーダンとの内戦により、襲撃や地雷によって、大人も子どもも負傷してしまう人が今でもたくさんいます。南スーダン内で治療ができない方を、隣国ケニアの国境近くにある赤十字の医療施設まで飛行機で運ぶのが私の仕事でした。

ー怪我で苦しんでいる人を搬送されていたんですね。

飛行機には、救急専門の看護師が同乗していました。ひどく負傷した人が、しばらくすると元気になって施設を歩

いている姿を見かけたときなどは、本当にやりがいを感じたものです。

ー大変なお仕事でしたね。そこから、日本に来たきっかけは何ですか？

実は、日本人の妻がその赤十字の医療施設で看護師として働いていたんです。休憩所で初めて会って、話してみたらとても気が合いました。その後、妻の事情で帰国することになり、私も日本で暮らすことに決めました。もう11年になります。

ーこちらに暮らしてみているいかがでしたか？

一番驚いたのは、英語を話す日本人が少ないことです。ケニアでは、公用語のスワヒリ語、英語、自分の部族語と最低3言語を話すのが普通です。来日前は、日本人も同じように、日本語と英語を話すのだと思っていた。そして、日本人はとても静かですね。また、日本語は、特に敬語が今でも難しいです。ただ、私の部族語と日本語の発音が似ているので、話していると通じやすいのいい点です。

ーこれからやりたいことは、ありますか？

言葉が十分通じなくても、ツーリングを通して日本人の友人がたくさんできました。栃木県は自然が多いので、これからも景色を楽しみながら、バイクで出掛けて行きたいです。



▲家族でケニアに里帰り後ろに移っているのは象

JICA
情報局

海のむこうの暮らしから
～ラオス 助産師隊員より～
大竹恵実さん（宇都宮市出身）

【こんな活動をしていました！】



南アジア唯一の内陸国で「陸の孤島」と言われるラオスは、国連の基準では、世界の後発途上国に分類される国です。私は、ラオスの首都ビエンチャンから60km程離れた片田舎のパークグム郡病院で活動していました。現地スタッフとともに、妊婦健診や乳児健診、お産の立ち合い、スタッフへのアドバイスなどを行っていました。また、村に出向いて妊娠や栄養についての健康教育を行いました。

ラオスの妊産婦死亡率は、日本の40倍、新生児死亡率は日本の30倍と高く、東南アジア近隣諸国の国と比べても医療水準が最も低い国でした。そのため、外部NPO法人と一緒に、現地の助産師・看護師さんへ新生児の人工呼吸や心臓マッサージなどの新生児蘇生法のトレーニングを行いました。

【栃木県のみなさんへメッセージ！】

憧れていた協力隊生活は、楽しいことよりしんどいことが多かったのも事実。しかし、私の人生の中で一生忘れないものとなりました。興味があれば、まずチャレンジ！

JICA 栃木デスクからのお知らせ

JICA 海外協力隊に関する個別相談は随時実施しています。興味のある方は、お気軽にご相談ください。

【JICA 栃木デスク】 Tel 028-621-0777

救急指導講習会を実施しました



▲心肺蘇生法を練習

センター来館者等に適切に応急救手当ができるように、宇都宮市中央消防署の救急救命士を講師に迎え、AEDの正しい知識や技術などを学ぶ職員研修を7月12日（金）に行い、TIA およびとちぎ未来づくり財団スタッフが受講しました。



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会(TIA)
住所 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777(代表) 028-627-3399(相談専用)
業務時間 8:30～17:15 休館日 日曜・月曜・祝祭日・年末年始
URL <http://tia21.or.jp> Email tia@tia21.or.jp